



令和6年3月28日

岩倉市議会

議長 関戸 郁文 様

会派名 自由クラブ

代表者名 大野 慎治

研修受講報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和5年10月26日(木)

2 研修先 岡崎市立福岡中学校

3 出席人数及び氏名

2名	大野 慎治	日比野 走

4 復命事項

別紙のとおり

校内フリースクール（F組）について

○経緯

学校や学級には足を運ばない子ども（児童）がどうして民間のフリースクールに通うことができるのか？を考えた時に学校内で同じフリースクールのような取組ができるのではないかと考えて取組を始めた。

○設置状況

令和2年度 中学校3校設置（甲山中、福岡中、矢作中）

令和3年度 新たに中学校5校設置（美川中、東海中、岩津中、北中、六ツ美北中）

令和4年度 新たに中学校6校設置（南中、竜海中、葵中、城北中、矢作北中、
新香山中）

令和5年度 新たに中学校6校設置（河合中、常盤中、六ツ美中、竜南中、額田中、
翔南中）

令和5年度 市内全中学校20校設置完了

○長期欠席児童生徒の現状

文科省の統計において、中学校では不登校率は令和元年に比べ令和4年では151%増加している。病気、経済的理由、その他、コロナ回避を含めれば162%増加している。小学校では不登校率は令和元年に比べ令和4年では197%増加している。病気、経済的理由、その他、コロナ回避を含めれば210%増加している。

○校内フリースクールの機能

- ・未然防止 全ての児童生徒が対象
- ・自立支援 不登校の状態にある児童生徒が対象
- ・初期対応 兆候のある児童生徒が対象

○長期欠席者減少のカギ「F組の理念の浸透」

- ①適応するのは子どもではなく学校である。（適応指導教室ではない）
 - ②通常学級と同じ、1つの学級として扱う。（子どもや教職員の意識を変える）→みんなが通る場所にオープンに設置
 - ③多様性を受け入れられる担任（エース級の教員が担任）
 - ④いつでも温かく迎える人がいる（支援員を配置）
 - ⑤教室復帰ではなく社会的自立を目指す（一日の取り組みを自分で考える）
- ①～⑤理念を浸透することによって「心理的安全性の担保」⇒「全学級に浸透させる」

○「未然防止」としての校内フリースクール「F組」

～子供を学校に適応させるのではなく、学校が子供に適応する～

魅力ある学校づくりにつながる校内フリースクール「F組」

- ・ 段差がないから好きな授業等、在籍学級へいつでも行ける！
- ・ 通常学級と同じ、1つの学級として扱う
- ・ 信頼の厚いミドルリーダーを担任にする
- ・ いつでも温かく迎える支援員を配置する
- ・ 温かく柔らかな教室環境にする
- ・ 校長が職員、生徒、保護者に「F組理念」を語る
- ・ 子供の笑顔を見た担任の意識が変化する。
- ・ 在籍学級も、様々な色をもつようになる。みんな違って、みんないい！学校が楽しい！

↓

- ・ 魅力ある学校になる

○理念を取り入れた魅力ある学校づくり

《F組が各学級のトップランナーになるとなることで》

◆全ての学級改革を図る

- ①多様性を受け入れる「授業づくり」
- ②多様性を受け入れる「居場所づくり」 ⇒ 在籍学級
- ③多様性を受け入れる「絆づくり」

○F組の成果

(1) 新規長期欠席児童の増加率の抑制

全国的には長期欠席者が急増する中、45%の中学校は、前年度より増加率が減少、55%が前年度の市の平均増加率よりも減少している。

(2) 教職員の意識改革による在籍学級の支援や指導の態勢に変化がある

(3) F組と在籍学級を併用する生徒の増加

○今後の課題

- ・ 大規模小学校や長欠が課題となっている小学校への設置を検討
- ・ F組の在籍人数が増加してきた中学校に対して、2人の支援員配置を検討
- ・ ベテラン教員の配置や支援員の確保などの課題があるが進めていきたい

所感

民間のフリースクールは義務教育中でも高額な費用がかかるため、本市においても中学校内にフリースクールの取組が始められるようにするべきである。また、民間のフリース

クールも改めて勉強し直す必要があると強く感じた。

・研修費用

交通費 岩倉～金山 360円

金山～岡崎 620円

桑名～岩倉 980円

980円×2×2名=3,920円